

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2024 年 2 月 新刊のご案内

出版史／文化史 ご担当者さま

サンリオ出版大全

教養・メルヘン・SF 文庫

小平麻衣子 (慶應義塾大学文学部教授)・井原あや (大妻女子大学専任講師)・

尾崎名津子 (立教大学准教授)・徳永夏子 (日本大学専任講師)[編]

四六判上製／416 頁 税込予価 3,960 円 ISBN978-4-7664-2940-4 C3036

👉 ココに注目！

- ・サンリオが展開した出版や映画事業を、同時代の文化との関わりから多角的に論じる。
- ・『いちご新聞』の元編集長・高桑秀樹氏のインタビュー・講演の他、関係者説話も掲載。

『詩とメルヘン』『いちご新聞』『リリカ』『サンリオ SF 文庫』『映画事業』……サンリオ創業者の辻信太郎は、詩人やなせたかしとの出会いをきっかけに、抒情とヒューマニズムの夢を追い求めて、出版事業に乗り出す。「カワイイ」キャラクター事業のかたわら、数々の出版物を世に送り出した新興企業は、他に類のない多彩な文化事業展開をみせ、多くのファンを獲得していった。消費文化をひた走った 1960 年代から 1980 代までのサンリオ出版の時代を、「女性文化」や出版史のなかに位置づける初めての試み。

対象 出版史に興味を持つ読者／少女カルチャーに興味のある読者

類書 牧眞司・大森望監修『サンリオ SF 文庫総解説』（本の雑誌社）

嵯峨景子『氷室冴子とその時代 増補版』（河出書房新社）

【営業部からのおすすめポイント】

本書は、今や世界的人気キャラクターをいくつも抱えるコンテンツ企業となったサンリオが、かつて手掛けていた出版、映画事業など多様な事業の一端から、当時の文化とどのように関わり、産業として発展させたかを探る、これまでにない試みとなりました。『詩とメルヘン』や『リリカ』など、実際に読まれていた方も、一企業の文化活動に興味をお持ちの方にも届けたい 1 冊です。

(吉川)

👉 主要目次 & 注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次】

序文 小平麻衣子

第Ⅰ部 雑誌共同体と外部

- 1 〈……だったら〉の诗情——『詩とメルヘン』とジェンダー 小平麻衣子（慶應義塾大学教授）
- 2 詩はだれのものか？——『詩とメルヘン』におけるやなせたかしの抒情と編集方針 大島丈志（文教大学教授）
- 3 『詩とメルヘン』のマザー・グースとアリス——ポスト戦後詩のノンセンスの視座から 吉田恵理（都留文科大学准教授）
- 4 感傷の在り処——『詩とメルヘン』と安房直子 尾崎名津子（立教大学准教授）
- コラム サンリオとロマンス小説の季節 尾崎名津子

第Ⅱ部 女性詩のバリエーション

- 5 きのかみと『詩とメルヘン』——詩の計量的分析から 米山大樹（立教大学日本学研究所研究員）
- 6 〈少女〉から〈兄貴〉へ——『詩とメルヘン』をめぐる言説と誌面の変化 井原あや（大妻女子大学専任講師）
- 7 言葉を送ること、受け取ること——『詩とメルヘン』における共鳴の方法 徳永夏子（日本大学専任講師）
- コラム サンリオの出版物——1970年代の詩集を中心に 井原あや

第Ⅲ部 教養ある商品

- 8 ひたすら信じつづけること——辻信太郎におけるメルヘン 河田綾（サレジオ工業高等専門学校助教）
- 9 『いちご新聞』の中の〈文学〉——ファンシーな教養主義 帆苅基生（弘前大学助教）
- 10 マンガ雑誌『リリカ』の挑戦 村松まりあ（立教大学大学院生）
- コラム 『キタキツネ物語』の周辺 吉田司雄

第Ⅳ部 産業と科学とフェミニズム

- 11 サンリオの映画事業とその時代 木村智哉（開志専門職大学准教授）
- 12 サンリオ SF 文庫の小説世界——山野浩一の SF 評論とその実践 加藤優（早稲田大学大学院生）
- 13 サンリオ SF 文庫とフェミニズム SF の地平 吉田司雄（工学院大学教授）

第Ⅴ部 サンリオの記憶

- 14 風に折れないコスモス、あるいは草原の口笛 小手鞠るい
- 15 講演 ポエムと現代詩のあいだ 小池昌代
- 16 夢のはじまる場所——『詩とメルヘン』のイラストレーション 永田萌
- 17 サンリオが届ける〈ギフト〉 高桑秀樹

人名索引



◀本書に登場する書籍の一部



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			小平麻衣子・井原あや・尾崎名津子・徳永夏子 編 サンリオ出版大全 —教養・メルヘン・SF 文庫 ISBN978-4-7664-2940-4 C3036	3,960 円	★★★★★

★1つで「500部」を表します